
熊本県化石産地めぐり〔8〕芦北海岸

(その2 ジュラ紀坂本層、白堊紀川口、海浦層の化石)

(前号附図参照)

(文) 熊大・教育 田 村 実

(図) 三角町育海甲 田 代 正 之

前回で地層の分布の大略をのべましたが、球磨川流域の坂本村から帯状に東北東—西南西方向にのびるジュラ紀后期の坂本層と白堊紀最前期の海浦・川口層が海浦地方から田浦の西方の太田の海岸にかけて露出しています。

坂本層は前記坂本の地名をとつてなづけられた地層でこの地層はさんごヤンダリスといううりのとげなどを含むことで有名な烏巢石灰岩(烏巢は四国高知県にある)をはさんでいます。田浦・海の浦間では板4及入御鼻の両側(第10号P.7の化石産地図参照)にこの石灰岩が分布し、何れも多量のさんご類化石を含み礁の存在を物語るつています。板5では長さ20cm以上にも達する*Nerinea*(巻貝)が石灰岩の表面に沢山あらわれているところがあります。しかし石灰岩中の化石はあまり保存がよくないので化石をみられない人には識別が少しむづかしいかもしれません。これらの石灰岩は略同層準で同時代の堆積と思われるのですが、この上位に(坂本層は南へ傾斜している)ので石灰岩の南側に)貝類化石をかなり多く産出する頁岩が分布しています。

この頁岩からの化石産地としては板6、板4

の南方、田浦巡査派出所上の尾根(宮浦と田浦町との中間で道路の東側)の3地点があります。第3番目の産地は蜜柑島をつくる時に風化した頁岩をほりおこしたところのもので現在では化石はあまりとれないでしょう。又板4の南方も蜜柑島のもと共に化石を沢山産しましたが、丁度小さい道路面でありほりおこすと迷惑です。その点で板6は海岸でもあり誰の迷惑にもならず化石をとれます。

これら産地からはごく少数のアンモナイト巻貝の他に二枚貝としては

Variamussium habunokawense

Grammatodon takiensis

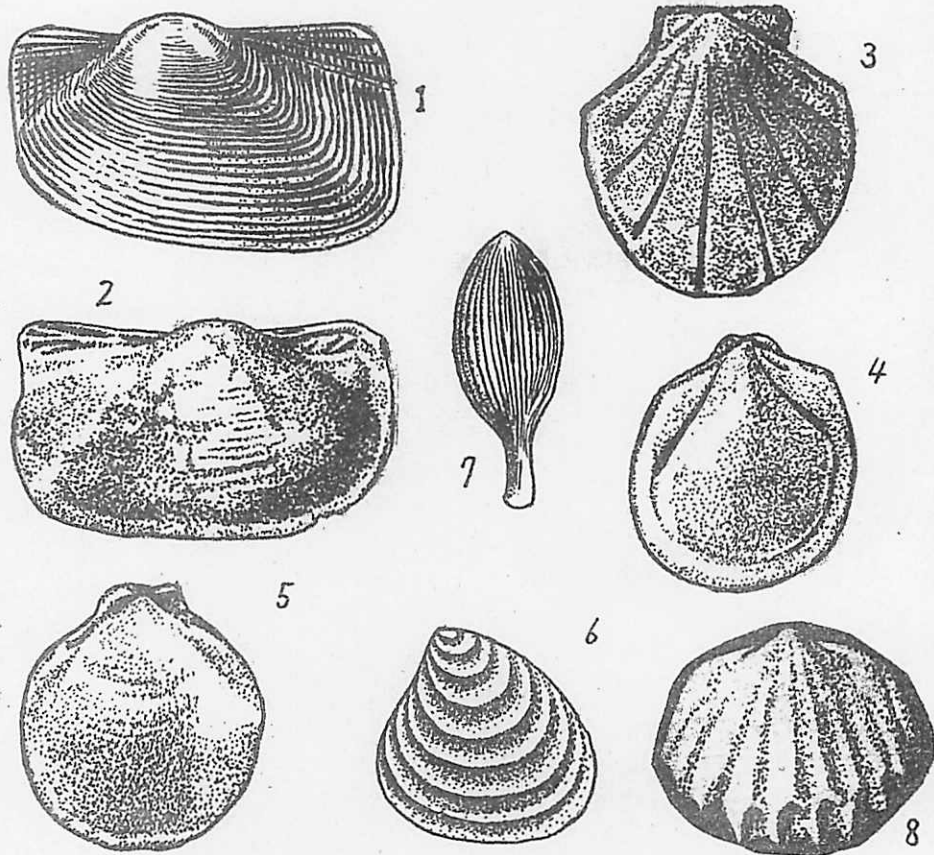
Entolium yatsujense

Entolium kimurai

Astarte ogawensis

腕足貝としては *Rhynchonella tamurai* などの公海性の特徴種を多産し次号以下で紹介する坂本附近のもとの化石群集がかなり異つていて生活環境の違いを物語るつています。これらの約30種の二枚貝の中には勿論、球磨川流域の坂本や二見、芦北町屋敷野などと共通

葦北郡 田浦海岸産
ジュラ紀 坂本層化石



- 1: *Grammatodon takiensis* Kimura ; X2 ; 外面
 2: *Grammatodon takiensis* Kimura ; X2 ; 内面
 3: *Variamussium habunokawense* Kimura ; X6 ; 内面
 4: *Entolium yatsujiense* Kimura ; X3 ; 内面
 5: *Entolium kimurai* Tamura ; X2 ; 内面
 6: *Astarte ogawensis* Kimura ; X3 ; 外面
 7: "*Cidaris*" sp. ; X2 ; 刺の外面
 8: "*Rhynchonella*" *tamurai* Tokuyama ; X2 ; 内面

種がありますが、四国、紀伊や福島県の相馬地方のジュラ紀層ものとも共通種があり、鳥巢動物化石群の名でよばれています。又或種ものは印度やアラビヤ地方に当時堆積した地層から産する種も含んで当時の海域のつながりを示しています。(猶附近のジュラ紀二枚貝化石については筆者が地質学雑誌及古生物学雑誌に報告したものがありますので特におしらべになりたい方はごらん下さい。)

㊦6では化石を産する黒色頁岩(この中から印度のスピタイ地方にも出る *Spiticeras* (*Kilianiceras*?) cfr. *encomphalum* Steurer というジュラ紀最上部のアンモナイトを産出しました)の上に石英と長石にとんだ白色の海浦層砂岩が整合状に重なり、この中からはかき貝の仲間やペレムナイト(箭石)の化石を産します。そしてこの上の黒色頁岩からは植物化石を産します。この植物化石は *Nilssonia* や *Cladophlebis* などの裸子、羊歯植物の化石で川口層産の植物化石によく似ており、又局部的にこの植物化石層の直下位に川口層産と同じ貝化石を産します。(所謂領石動物群といひ半鹹半淡の環境にすんだ化石といわれています)それ故にここではジ

ュラ紀から白垩紀層が略整合で重なり又この白垩紀層は同時代と思われる北方太田附近の川口層と違つてペレムナイト(海成層にしか出ない)を産するので海ノ浦層となづけられています。㊦3の海岸及㊦1では川口層(球磨川流域の坂本村川口附近に露出している地層の延長部)の半鹹半淡の貝化石を多産します。㊦2では化石が層をなして密集して産しますが、保存があまりよくありません。しかし海岸なので多人数の採集に適しています。きれいな化石は産出量は少いけれどむしろ㊦1で採集した方がけんめいです。この領石動物群の二枚貝、巻貝は前記川口附近や深水東方や東陽村の坂より上にも産します。又略同時代の山口県の下関の北方吉田の海岸や、四国の高知県佐川町北方の介石山等にも産します。

Pulsides nagatoensis
Eoursivivas matsumotoi
Ostrea aff. *ryosekiensis*
 "Gervillia" *shinanoensis*
Astarte cfr. *sakawana*
Polyme-oda (I.) *shiroiensis*

等を産しますが、川口層の化石は未だよく研究されていません。

~~~~~